

大田区自立支援協議会だより

編集・発行 大田区自立支援協議会
事務局 大田区福祉部障害福祉課障害者支援担当（計画）
電話 03（5744）1700
ファックス 03（5744）1592

第8号 平成27年1月

「大田区自立支援協議会」は、障がい者及び障がい児の地域における自立した生活を支援するため、相談支援事業をはじめ、地域の障がい福祉の課題について具体的な検討を行うことを目的として区が設置しています。協議会委員は、障がいのある方や障がい福祉に係わる様々な分野の関係者で構成されています。

●「さぽーとぴあ3月1日に開所します」 さぽーとぴあ 統括業務責任者 中原 浩



謹んで新春のお祝いを申し上げます。
さぽーとぴあ（大田区立障がい者総合サポートセンター愛称）
につきましては、個別支援にかかわる部分が業務委託とされ、
平成25年度に公募プロポーザル方式により、
社会福祉法人東京都知的障害者育成会が受託させていただきました。

昨年6月より「相談支援部門」が特定相談支援事業所として先行実施、11月より「地域交流支援部門」「就労支援部門」「居住支援部門」の開設準備業務が開始し、それに伴い大田区自立支援協議会の全ての部会・作業部会にも参画させていただいております。

さぽーとぴあが、事業毎の雑居ビルとならないように事業間の連携による総合力を発揮し、「ここに来れば何でもわかるセンター」の実現を目指します。

●新年にあたって 福祉部長 坂本 尚史



新年あけましておめでとうございます。
大田区自立支援協議会は、今年5月で8年目を迎え、ますます
円熟味が増したと感じております。

昨年は、障害者権利条約が2月に発効され、障がい者福祉の大きな転換期となりました。私どもといたしましても、この機を逃さず、障がいのある人の自分らしい生活のための施策を推進していきたいと考えております。しかし、行政だけで様々なニーズに対応するには限界があります。そこで協議会の皆様のお力をお借りして、新たな取り組みにも着手してまいりたいと考えているところです。

今年は、いよいよ3月に、障がい者総合サポートセンター「さぽーとぴあ」を開設いたします。「さぽーとぴあ」は、27年度から協議会の事務局となる予定です。ぜひご活用いただければと思います。また、「さぽーとぴあ」の運営に関しましても、随時ご意見を頂戴できればと思っております。

早いもので、今年度も残すところあとわずかとなりました。今回は、自立支援協議会委員がこれまでの活動を振り返りました。協議会の未来も見据えてつづったものです。ぜひご一読ください！

～テーマ「私と自立支援協議会」～

相談支援部会

就労継続支援B型事業所（知的）（くすのき園 支援係長） 齋藤 靖之

今年度11月より協議会委員を務めさせていただいております。これまでこういった経験もなく、勉強不足のため未熟な点多々あるかと思いますが、頂いたこの機会を大切に、多くのことを学ばせていただきながら地域の抱える障がい福祉の課題にしっかりと向き合い、協議会の目的である障がいを持つ方々の地域における自立した生活の支援に少しでも貢献できるよう努めていきたいと思っております。今後ともよろしくお願ひいたします。

生活介護サービス事業所（知的）（大森東福祉園 支援係長） 後藤 準子

私は知的障がい者と日常関わっていますが、個別支援会議への参加を通じて、地域には多種多様な事例があること、また利用者個人の課題を地域の共通課題として共有化・集積していく必要性を実感しています。これからも、地域の課題検討や新たな資源開発等について、皆様とともに取り組んでまいりますので、よろしくお願ひいたします。

防災部会

NPO法人大身連 栗田 修平 ※地域資源評価開発部会にも所属。

今年度は、副会長にもなりました。ですが、それにふさわしい動きがなかなかできず、申し訳なく思います。それでも、専門部会はもちろん、度々の防災訓練や『(仮)おた障がい施策推進プラン』策定会議等に参加することで、自分の中に新たな意識が芽生えたように思います。これからもよろしくお願ひします。

大田区肢体障害者福祉協会 遠藤 文夫

部会に出席していろいろの意見は参考になります。私達の会も高齢者が多くなり災害時の対応が気になります。肢体と言うと車イスと思う方も多いと思いますがさまざまな障がいの方がいます。私の住む町会の訓練に出ています。そのつど要援護者の件、福祉避難所の件など町会の役員さんと話しています。部会の意見は今後も役立つようにと思っています。

大田区聴覚障害者協会 仲原 ゆり子 ※地域資源評価開発部会にも所属。

委員は2年目になります。最初は、部会で話し合われている内容がよくわかりませんでした。少しずつ理解できるようになりました。新しく入った委員のために、前年度話し合った内容や継続審議のポイント等の説明があるといいと思います。地域資源評価開発部会で特別支援学校と施設を見学し、協議している内容が具体的によくわかりました。ろう者の手話という方法とは別に、文字板を使ったり、微妙な表情の動きによるコミュニケーションがあることを初めて知りました。お母様のことを考えると医療的ケアのできるレスパイト施設が必要だと思っております。防災部会で感じたのは、避難訓練への参加の重要性です。障がい者の存在を知ってもらうことも大切です。差別解消法により、公的機関に手話の配慮が拡がることを期待し、活動していきたいです。

福祉サービス事業者（NPO法人ASK 理事代表） 栗田 総一郎 ※地域資源評価開発部会にも所属。

3年目となる今期は、様々な課題について一歩踏み込んだ形での議論ができたのではないかと自負しております。ただ議論を深めていくと社会資源（人材不足を含む）や、連携といった「地域力」の脆弱さを痛感せざるを得ませんでした。もともと私は制度以外での生活支援を行ってきいてますので、来季は協議会は若い世代に託し、今、大田の地域で必要とされている仕組みづくりに取り組み、「さぼーとびあ」を盛り上げていきたいと考えています。

地域資源評価開発部会

大田区重症心身障害児（者）を守る会 青山 明子

私は、重度障がい、医療的ケアを必要とし在宅で生活している障がい者の親です。実態を理解してもらいたいという思いで、都立北療育医療センター城南分園や都立城南特別支援学校を見学してもらいました。それぞれ違う障がいのある方がわかってもらうため話し合うのですが、それでも話を聞き、理解し合うことは大事だと思います。委員同士が話し合ったことを少しでも行政に反映してもらえ、そんな自立支援協議会であってほしいと思っております。

大田区精神障害者家族連絡会 渡辺 政子

障がいのある人もない人も共に暮らせる社会をとの謳い文句ではありますが、精神は常に遅れており差別もありました。精神障がい者とその家族の事を解っていただきたいと参加させていただいてます。しかし生きにくさは皆同じである事、行政も一生懸命取り組んで下さっている事も解ってきました。障がいのある人ない人皆一緒だねという社会になる様取り組みたいと思います。

特別支援学校（身体）（都立城南特別支援学校 進路コーディネーター） 山村 鋼哉

委員にいただき、自立支援協議会に参加することで、本当に視野が広がりました。事業所・ヘルパーの不足、安易にサービス・資源を利用する人がいると、本当に使いたい人が使えなくなる等、自立支援協議会で知ることができた事は、自分にとって財産になっています。今後も微力ながら、大田区や保護者にどうすれば力になっていけるか考え、そして行動していきたいと思っています。

大田区社会福祉協議会（地域福祉推進課自立支援係サービス提供責任者） 小澤 浩子

私は今年度から参加し、多くを学ばせていただく中で、それぞれの現場の課題を共通のものとしていくことの大切さを感じています。この協議体と大田区の協働関係が軸になって、課題解決へのシステムがより良いものになるように、所属団体や現場へのフィードバックと、現場の声をあげる取組みを続けていきたいと思えます。

医療機関（大森赤十字病院 医療社会事業係長） 林 達彦

当部会において、救急病院ソーシャルワーカーがどのような部分で貢献出来るのか常に考えています。当部会での検討内容は、当事者方のご意見をお聞きすることが多く、大変学びと多くの多いものでございます。この学びを、来春大森赤十字病院近隣に開設予定の「さぽーとぴあ」運営の一助とさせていただければと思います。

こども部会

特別支援学校（知的）（都立田園調布特別支援学校 主任教諭） 加藤 治

先日東京都自立支援協議会セミナーで、長野県北信圏域の事例が紹介されました。改めて考えさせられたのは、就学前から卒業後までの支援をつなぐ特別支援学校のコーディネーターの役割でした。圏域人口は調布地域の半分ぐらいですが、コーディネーターが幼保などからきめ細かく情報収集していることが印象的でした。コーディネーターのフットワーク、各部課の枠だけでなく市町村の枠まで越えて有効に機能している自立支援協議会など参考にしていきたいと思えます。

特別支援学校（知的）（都立矢口特別支援学校 主任教諭） 田中 美奈

こども部会で得た知識、情報は本校の校内相談、支援会議に役立たせていただいております。また、様々な関係機関の方と知り合ったことで、本校の児童・生徒や家庭への支援を迅速に行うことができ、本当に感謝しております。今後はこのつながりを巡回相談を行っている小・中学校の連携にも活かしていきたいと思っております。

福祉サービス事業者（NPO法人風雷社中 事務局長） 田中 庸介

協議会に関わる初年度となりましたが、私自身はもちろんのこと、成果と課題を痛感した1年でありました。こども部会での議論は私に新たな知見と課題意識を与えてくれました。ですが、限られた時間の中で協議会での活動をしていくことは困難が付きまといました。協議会そのもののあり方検討が今期からスタートしたのは、自身の反省と照らし合わせても今後の自立支援協議会を次のフェーズに移行し質を高めていくには必須なのだと考えています。

（※部会長等一部の委員から寄稿をいただかなかったため、就労支援部会は掲載がありません。：事務局）

「障がいのある人の法的支援学習会」の報告

日時 平成27年1月18日(日)10:00~11:30 内容

参加者 26名 うち 協議会委員10名

会場 池上会館3階視聴覚室

講師 浦崎 寛泰氏 (弁護士)

前半は講演、後半は事例検討、発表、総括といった流れで濃密な90分超の学習会は好評のうちに終了しました。様々な立場の方が参加され、グループワークでの討議が有意義なものになりました。



日時 平成26年11月9日(日)
10:00~12:00

会場 区立調布大塚小学校

参加者 協議会関係者 11名

田園調布地区総合防災訓練の報告

○要援護者用スペースにて防災課によるオリエンテーションを聴講、その後体育館におけるAED訓練や非常食や毛布・断熱シートの展示訓練、起震車・煙体験などに参加しました。

○災害時を想定した電話のかけ方を再現する訓練もあり、臨場感あふれる訓練を体験しました。



○自立支援協議会では参加者にヘルプカードとチラシを配布。

日時 平成26年11月16日(日)
9:00~12:00まで

会場 こらぼ大森

参加者 協議会関係者 7名

沢田東町会避難訓練(こらぼ大森)の報告

○防災部会による、地域と協働した防災訓練への取り組み。こらぼ大森に「障がい児・者実行委員会」が設置されていることもあり、こちらを避難所とする沢田東町会のみなさまのご厚意とご協力のもと、参加しました。



○スタンプラリーにより各訓練をめぐる方式で、担架や消火器・ポンプ・三角巾の使い方などの丁寧な指導を受け、実践訓練。

自立支援協議会公開セミナー「多様化する障がい者の就労支援」
～難病・触法・生活困窮の現場から～を開催します

講師 ハローワーク渋谷 難病患者就職サポーター 島田 夏子 氏
更生保護法人 東京実華道場 ステップ押上 三村 学 氏
社会福祉法人大田幸陽会 大迫 正晴氏

日時 平成27年2月5日(木)15:00~17:00まで

会場 大田区民ホールアブリコ 小ホール

定員 100名 ※手話通訳あり 申込み不要 当日会場へ

大田区公式ホームページ内に大田区自立支援協議会ページあります

<http://www.city.ota.tokyo.jp/>

「大田区自立支援協議会」で検索!!

【編集後記】

自立支援協議会
7年目
委員たちは
なに思う!
新しい動きへと
繋ぎましょう
(S)